

関西 56 人の
**建築家と
家をつくる。**

Wooden Structure 木造

RC Structure 鉄筋コンクリート造

Steel Structure 鉄骨造

Mixed Structure 混構造

**夢を形にした
60のストーリー**

『関西 56 人の建築家と家をつくる。』は、建築家の職能団体である日本建築家協会（JIA）の一支部である近畿支部の、そのまた一部会である住宅部会が刊行したものです。それでは「一部の建築家たちの仲間内の作品集ではないか、大した内容じゃないな」とお思いになるかもしれませんが、素晴らしい内容になったと自負しています。この「はじめに」の原稿は、「建築家カタログ」の全ページがそろった校正の段階で書いていますが、校正刷りを見ながら、ここで紹介されている住宅作品の質の高さにあらためて驚嘆しました。

最近の建築界でも東京への一極集中が加速しており、建築ジャーナリズムでは、とくにその傾向が強くなっています。住宅作品という言い方をしましたが、建築雑誌では、主として東京の建築家による前衛的な住宅作品が多く紹介されています。そこでは「住まう」という行為をぎりぎりまでそぎ落とし、追い込んだ住宅が「作品」として紹介されています。しかし、この本にはそうした作品は皆無です。関西に深く根をおろしている住文化の伝統と質の高さを継承しながら、クライアント個々人の個性がうかがえる住宅の数々、これこそ「住宅作品」と呼ぶにふさわしいものではないでしょうか。

社団法人日本建築家協会近畿支部長 小島 孜

はじめに	2
建築家に聞きたい “よくある質問 Q&A”	6
建築家と家をつくる (設計依頼から竣工、メンテナンスまで)	8
4つの構造 (木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、混構造) について	10

Wooden Structure 木造

01 青木泰憲	相楽舎Ⅱ	12
02 阿久津友嗣	奈良 法蓮町の住宅	16
03 天野拓夫	高野街道沿いの家	20
04 伊藤 孝	塚口本町の家	24
05 井上久実	House TAKATSUKI	28
06 魚谷繁礼	京都型住宅モデル	32
07 大江一夫	GREEN HOUSE	36
08 奥田 敦	十八間堂	40
09 栗林賢次	飯能の家	44
10 小島 孜	BEYOND	48
11 柴 隆志	上甲子園の家	52
12 重村 力・重村桂子・吉村雅夫	豊岡エコハウス	56
13 真銅裕子	市川町の家	60
14 眞野サトル	綾部ランチハウス	64
15 鈴木道子	天満のマチャ	68
16 角 直弘	okukage/ 三条町の家	72
17 辻 壽一	四条通の家	76
18 津田 茂	fe	80
19 津田 茂	parecido	84
20 峠 一雄	千代ヶ丘の家	88
21 濱田 猛	House D	92
22 古久保泰男	小倉の家	96
23 堀部直子	はつが野の家	100
24 前谷卓嗣	鴨島の民家	104
25 柳川賢次	岩園町の家	108
26 横関正人	路地のある寺内町の家	112
27 吉川弥志	長岡京の家Ⅱ	116
28 吉村篤一	北白川の家	120

RC Structure 鉄筋コンクリート造

01 入塩安高	岡本 8 丁目の家	124
02 大江一夫	CLUSTER HOUSE	128

03 坂本 昭	深沢の家	132
04 末包伸吾・山崎康弘	苦楽園の家	136
05 瀬戸本 淳	渡り廊下のある白い家	140
06 高砂正弘	壁層の家	144
07 高光良和	菅の家	148
08 土山達也	寄り添う家	152
09 西濱浩次	茨木の家	156
10 古田義弘	御影ゲストハウス	160
11 守谷昌紀	加美の家	164
12 八木康行	R69	168

Steel Structure 鉄骨造

01 青砥聖逸	まち角の Refine・松崎町の家	172
02 川村拓雄	KI house	176
03 北脇一郎	神領の家	180

Mixed Structure 混構造

01 荒谷省午	宮山台の家	184
02 生山雅英	sumiA	188
03 岩田章吾	千里の家	192
04 大西憲司	桜の家	196
05 貴志雅樹	T HOUSE	200
06 岸下真理	甲陽園目神山町の家	204
07 木原千利	柁木の家	208
08 角 直弘	周南の家	212
09 関谷昌人	LIFTED HOUSE IV	216
10 竹原義二	乗鞍の家	220
11 長谷川総一	広陵町の家	224
12 長谷川総一	百舌鳥の家	228
13 平川 徹	武蔵野の家	232
14 広渡孝一郎	生駒の家	236
15 松村佳久男	K-CONFORT	240
16 森村政悦	TELEVISION HOUSE・奥池の家	244
17 矢田朝士	ES house-02	248

建築家カタログ・リスト	252
-------------	-----

JIA (社団法人 日本建築家協会) と住宅部会について	271
------------------------------	-----

あとがき (編集後記)	272
-------------	-----

堀部直子 Naoko Horibe
はつが野の家

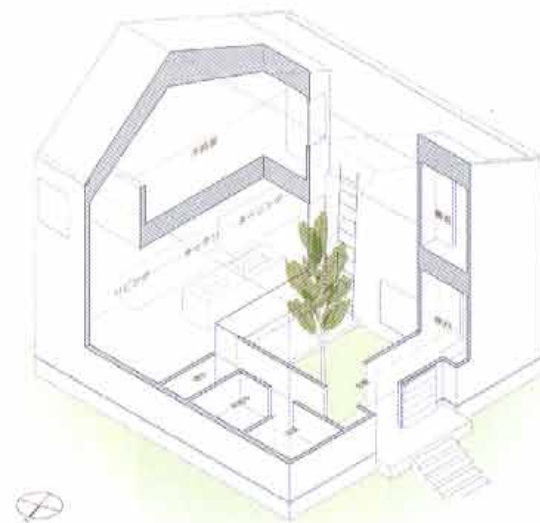
クライアントの「白くて美術館のような家」という要望から、敷地の高低差を芝生の法面とすることで、小高い丘に建つ美術館をイメージしました。

プライバシーと採光・通風を両立させるため、全ての部屋を中庭に面するように計画し、外部に向けた開口の配置を、隣家の隙間を縫って視線が抜けるような位置にすること

で、広がりを感じられる空間にしました。

芝生のアプローチを通り、大きな引戸の玄関扉を開けると中庭のシンボルツリー、その奥にはクライアントこだわりの真っ白なキッチンが見えます。

吹き抜けや中庭を通して家族がいつでもどこでもつながる、とても楽しい家になりました。



前谷卓嗣 前谷ひさえ Takuji Maetani Hisae Maetani 鴨島の民家

母屋に隣接し、新しい生活スタイルに合った、快適に暮らせる住まいを計画したものです。母屋とのつながりを念頭において、配置を考えました。母屋の西側に建っていた3棟の納屋の2棟を解体し、この2棟が建っていたエリアを今回の敷地として計画し、北側の1棟は解体せずにリノベーションにより、車庫と倉庫として再利用しています。

建物は母屋との調和を考え、深い軒を掛け、和瓦葺きの屋根としつくりの塗壁で仕上げた、落ち着いた佇

まいとしました。解体した納屋の梁を居間の棟梁に、基礎の青石を玄関やポーチの敷石として再利用し、受け継いできた家の歴史を継承するようにしました。

コの字型の平面とすることで生まれた中庭が、居間とプライベートな寝室エリアとの緩衝帯かんしゅうたいになっています。居室の前には縁側を巡らせ、軒下空間を室内の延長として楽しめるようにしました。さらにこの縁側は一部母屋とつながり、行き来ができるようにしています。



2



3

1 玄関ポーチ夜景。2 ベンチを設けた玄関ポーチ。3 青石を敷設した玄関ホール。4 居間から中庭方向を見る。5 格子の向こうに2階洋室が見える。



4

5



西濱浩次 Kohji Njshihama
茨木の家

産婦人科医院を開業するクライアントは、医院の隣接地に老後を快適に過ごすための住まいを希望しました。敷地は中央がくびれたノコギリ型のため、構造はRC造で、変形した敷地形状に沿って湾曲する2枚の壁に扶まれたシンプルな空間構成としました。厚い壁と床は十分な構造

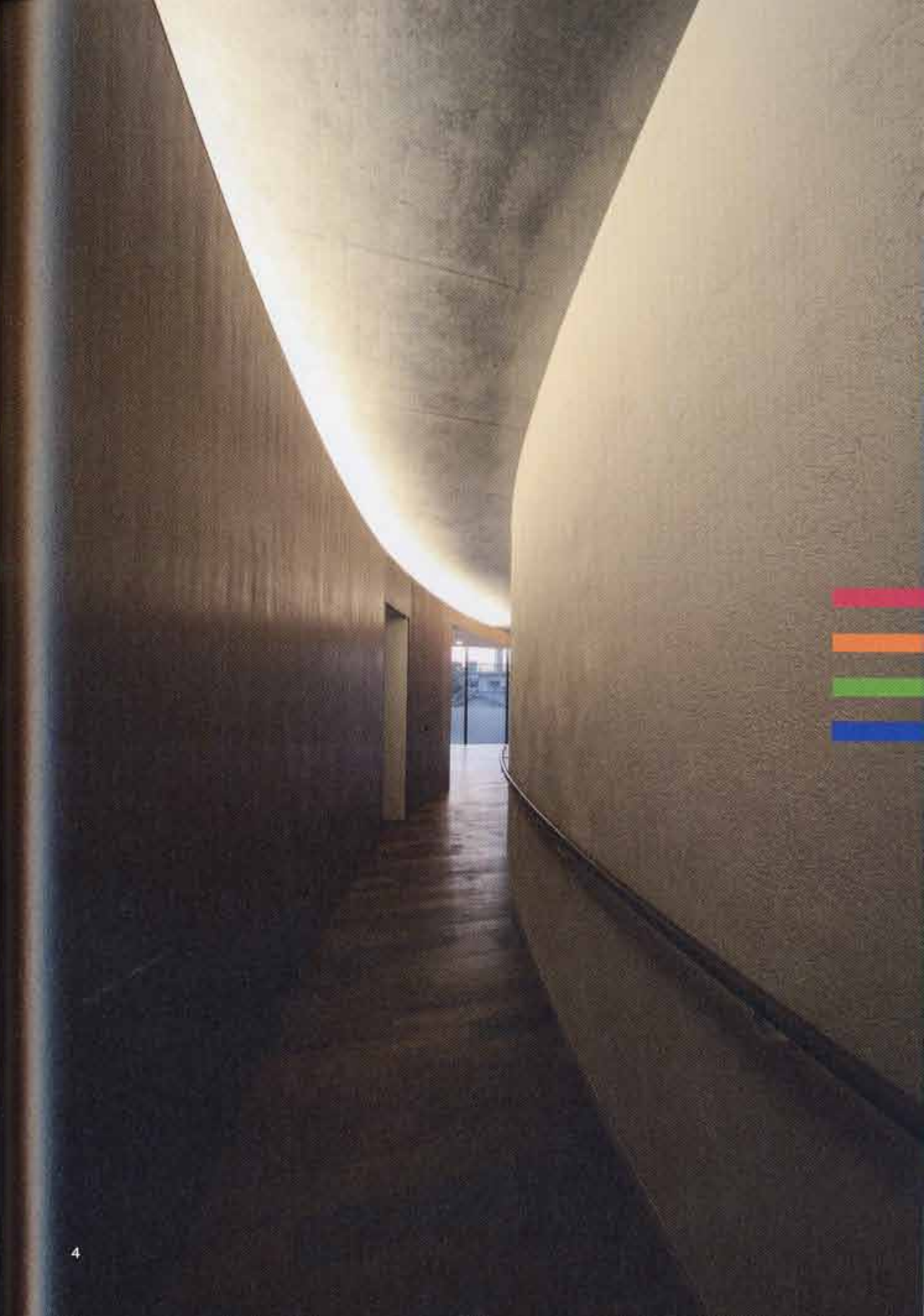
耐力は当然ながら、遮音などにも高い性能を有しています。

1階は隣接する医院と合わせて使えるキッズルーム、セミナールーム。2、3階の自宅は中央のくびれた部分に水回りやクローゼットなどを効率よくまとめ、その上部に空調や間接照明などを組み、両側に大きな居住空間を配置しました。3階はゲストルームを兼ねるリビング・ダイニングで、南側のルーフテラスは、高い手摺り壁により周囲からのプライバシーを確保しています。

そして、主なところには全て手摺りを設け、縦の移動はホームエレベーター、扉は全て引き戸という将来の車椅子での生活へも配慮したバリアフリー住宅としました。



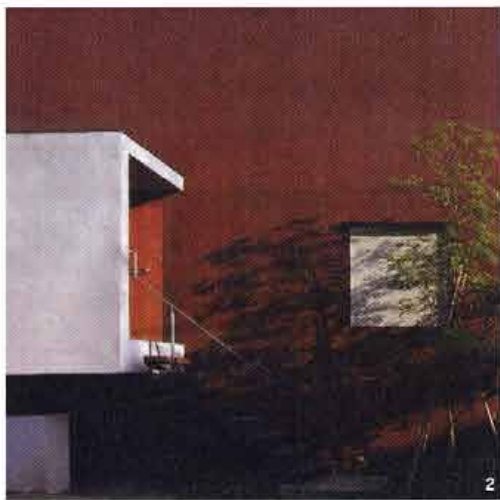
1 西側外観。2 北側外観。3 西側外観：両側の2枚の壁柱が空間を支える。4 2階廊下：敷地形状に沿って外壁が湾曲する。



北脇一郎 Ichiro Kitawaki
神領の家

「神領の家」は、壁面での開口のかわりにトブライト、屋上庭園、地下庭を居室と連続させることにより、外部環境を内部に取り込んでいます。リビングの上部が全面トブライトで、大きな吹き抜けの空間となっています。この空間に夫妻の寝室をロフト空間として附属させ、対面には屋上庭園を配置しています。

トブライトと屋上庭園を連続さ



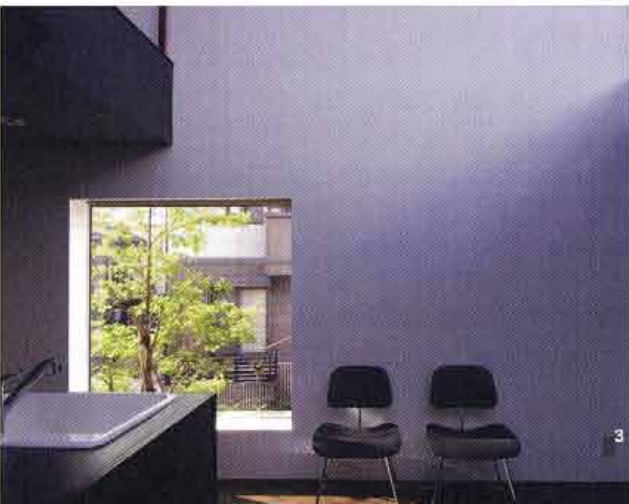
2



4



5



3

せることにより、壁面は極度に閉ざされていますが、上方への豊かな広がりを持たせています。このリビングのトブライトは、日々の天候などを内部にしながら感じられ、季節の移ろいを実感させてくれます。

また、ブレイルームやゲストルームには、それぞれ専用の地下庭が設けられています。ブレイルームの地下庭は外部とつながり、その地下庭に面している部分は（プライバシーを確保した）大開口部になっています。ゲストルームの地下庭は、一見内部空間のように感じられるのですが、実際は外部とつながった不思議な庭となっています。



6

木原千利 Chitoshi Kihara

柗木の家

この地域は敷地の区画が大きく、道路より後退して家並みが続く、緑が根着いた住宅地です。親子3人の住まいに、和室と車2台分の車庫との要求から計画を始めました。

道路からの1mの高低差を生かすこと、近隣の視線を調整し開放的であること、30%という厳しい建蔽率、

これらの条件を満たすべく、平面計画を繰り返しました。

道路に面した車庫の上に和室を乗せることで道路からの顔とし、日々の生活は北側に配しています。アプローチは東側階段をつたい玄関へと導き、玄関ホールを和室と居間寝室とのつなぎの空間としました。この

字型平面の中庭を西側に開放させ、午後からの光を採り入れ、風を誘い入れます。

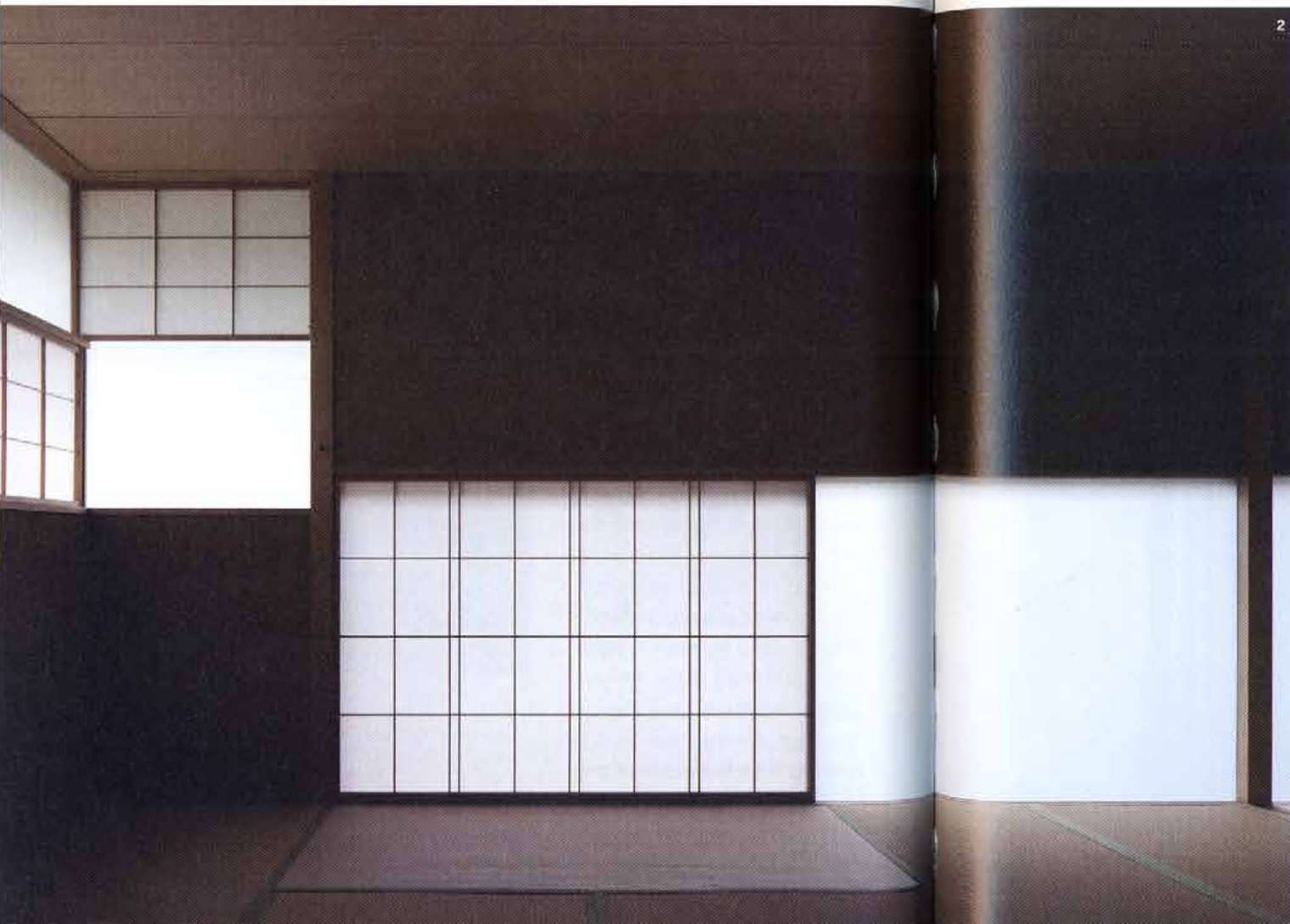
北側2階建ての中央は吹き抜け空間で、それにつながる階段と渡り廊下から、中庭と和室屋根越しに遠く大和の山並みへと視線が広がります。時と場所により、見え方の異なる



る景色を味わうことができます。

中庭をはさみ、居間からの景色として存在する南側の和室は茶室のような窓を持っています。ガラスを多用した変化に富んだ構成で、軽やかな透けの空間です。中庭から飛び石伝いに露地を上り、柗木扉と水盤を見ながら待合腰掛けへと導かれます。高低差と視線の変化が奥深さを感じさせ、やがて植物も育ち、市中の山居となればと想っています。

1 水盤より住居棟を見る。2 和室西面を見る。3 道路側外観、和室棟を見る。4 和室夕景。5 玄関ホールから居間を見る。



竹原義二 Yoshiji Takehara 乗鞍の家

敷地は美しい丘陵に挟まれた自然豊かな郊外の住宅地。南北に40mの長さをもつ細長い敷地は、坂道に沿ってレベル差をもち、東に道路を挟んで小高い森と対峙しています。敷地と向かい合う森とをつなぐように5つの庭を配し、それぞれの部屋がそれぞれの庭とつながり、異なる景色が添えられています。

この住宅は2世帯住居で、両親の住まう南棟は2層分のT字型プランとし、内部と外部が図と地の関係で開い込み、透明感のある落ち着き

のある場所を確保しています。

北棟は南棟から1500mm下がったレベルに3層分の2つの箱を併置し、隙間を設けることで自立させています。それぞれの棟はレベル差のある庭を挟んで雁行し、さまざまな距離感を生んでいます。向かい合う壁のテクスチャの違いと、壁に設けられた開口によって、さまざまな方向へ視線が導かれ、庭を挟んで対峙する部屋越しに森や空が感じられ、移ろう光や影、通り抜ける風と共に魅力的な風景を切り取っています。



2



3

1 南棟家族室。2 レベル差のある庭を雁行する2棟が開い込む。3 北棟側から見た南棟の夕景。4 南棟の和室から庭を介して北棟を見る。5 北棟玄関前の庭。石垣越しに南棟が見える。



4

5